

日本の運命を変えた大戦、長篠・設楽原の戦い

◀長篠城の御朱印



長篠城跡

長篠城は、徳川家に仕えていた菅沼元成が1508年築城し、代々菅沼一族が城主を務めていましたが、1573年元成の玄孫(孫の孫)である正貞の代に武田軍により攻められ、落城し、武田家に仕えることになりました。しかし、同年武田信玄が急死すると徳川家康は長篠城を攻め、奪還に成功し、これにより正貞は城をあげ渡すことになりました。

亀山城を本拠とする奥平定能とその息子の奥平貞昌(後の信昌:長篠の戦いでの武功を讃えられ織田信長より「信」の一字を与えられた)は元々は徳川方についていましたが、武田方とも内通していました。1570年同盟を結んでいた奥三河の遠山氏が徳川方として武田軍と戦っていましたが(上村合戦)、遠山勢が惨敗すると、奥平定能は武田方に寝返りました。しかし、武田信玄が急死したことを知った家康は、娘の亀姫を貞昌に嫁がせることを条件に、武田から離反し徳川の家臣となることを承諾させました。徳川について貞昌は奥三河の守護を任せられ、篠城の城主となりました。

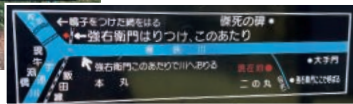
天正3年5月(1575年7月)、武田勝頼は、1万5,000の兵を率いて離反した貞昌が守る長篠城を攻めました。いわゆる長篠の戦いのはじまりです。武田軍に包囲された奥平勢は籠城を余儀なくされ、援軍を要請するため徳川家康の居城、岡崎城に家臣の鳥居強右衛門(とりいすねえもん)を使者として送りました。天正3年5月14日の夜、強右衛門は

長篠城下を流れる寒狭川を潜り、武田軍の包囲網を無事抜け出て、60km以上を走破し、翌日の午後、岡崎城に到着します。織田・徳川連合軍が長篠城の救済に来ることを知った強右衛門はこれを告げるため長篠城に引き返すのですが、長篠城の対岸の村で武田軍に捕まってしまいます。NHKの大河ドラマ『どうする家康』でも放映されたように、強右衛門は、武田勝頼から長篠城に向かって援軍は来ないことを告げよと命ぜられますが、強右衛門は数日で織田・徳川連合軍が到着するから持ち堪えるように叫びました。これ

により勝頼の怒りを持った強右衛門は梁(はりつけ)られ、槍で刺され処刑されてしまいます。



長篠城跡から見る梁(はりつけ)の場所



戦国時代、長篠は、愛知から静岡北部、山梨、長野へと通ずる交通の要衝であったことから、長篠城は戦略上の重要拠点として、今川、武田、徳川の間で争奪戦が繰り返されてきました。戦国時代最強の軍勢を率いる武田氏を滅亡へと導くことになった長篠の戦いでの勝利は、織田信長を天下人へとまた一歩近づけることになりました。



▲長篠・設楽原の戦いの戦死者が葬られた信玄塚



石碑の案内図



鳥居強右衛門の墓



◀設楽原歴史記念館の屋上から眺める古戦場の馬防柵(ばぼうさく)



設楽原歴史記念館の御朱印



鳥居強右衛門 磔死(たくし)の碑



長篠・設楽原決戦場跡



長篠・設楽原合戦屏風絵図



設楽原に再現された馬防柵(ばぼうさく)

[文・写真 遠藤]